

2013年7月2日
慶應義塾大学言語文化研究所

2014年度言語文化研究所公募研究

総合テーマ： 精神史における言語使用の創造性

「言語の本質的機能は人間の思考の創造的な表現手段にある」とみなす限り、言語機能のもっとも創造的な発現形態は、人間の長い歴史の流れのなかで形成された自由にして高度な精神文化にこそ見いだされるであろう。一方、現代言語学の視点に立つならば、人間言語はけっして無制約かつ恣意的な記号体系ではなく、むしろ、「特定の諸原理に制約された特殊な記号体系」である。

人間は、状況に応じて適切に言葉を選択し、自由かつ創造的に思考する。この事実と、「人間言語自体が強い制約下にある」という事実は一見矛盾するようであるが、現実の人間精神の歴史のなかでは、そこに矛盾を見いだすことはできない。むしろ、この二つの局面が人間精神の深奥において緊張関係を生みだし、そのことが人間精神の創造的営為の契機になったと考えるべきであろう。

世界の歴史に名を残す思想家・学者から、民間文化の担い手にいたるまで、古今東西の知的で想像力豊かな精神は、以上のような性格を本質的に内包する人間言語を巧みに操り、創造的な活動を多彩に展開してきた。彼らは、言語の力を駆使して如何なる思考を表現してきたのか。その表現を通して人間言語の可能性をどのように拡大してきたのか。また、彼らの創造的な精神活動はその背後にある言語観とどのような関わりを持つのか。そして、そのことは現代における言語研究にとって何を意味するのか。

人文学・社会科学・自然科学の最近の成果を十分踏まえた上で、かかる問題に取り組む研究を歓迎する。

公募研究応募要領

1. 応募要件

研究は次の要件を満たすものを採択する。

- 1) 共同研究であること。
- 2) 総合テーマに沿う独創的研究であり、国内外の学界に寄与するものであること。
- 3) 塾内の学部・大学院研究科・研究機関・一貫教育校などを横断した研究であることが望ましい。
- 4) 言語文化研究所の研究活動と有機的な関係を持つ研究であること。
- 5) 研究成果が下記研究期間終了後 2 年以内に単行書の形で刊行可能であること。

2. 応募資格

研究代表者は本塾の専任教員とする。研究分担者は塾内、塾外の別を問わない。また大学院生は研究協力者として参加できる。(なお採択の場合は当該研究期間中、研究代表者は当研究所の兼担所員に、研究分担者は兼担所員もしくは兼任所員のいずれかに委嘱する。)

3. 研究期間

2014 年 4 月 1 日から開始し、期間は 2 年とする。

4. 採択件数

1 件とする。

5. 助成金額

年額 250 万円を上限とする。

(研究成果刊行費については当研究所が別途助成する。)

6. 申請

2013 年 11 月 29 日 (金) 必着で申請書を当研究所事務室に提出すること。

「申請書作成上の留意事項」は当研究所事務室にて配布する。

7. 審査

審査は当研究所が設置する公募研究審議委員会において行う。

審査結果は 2013 年 12 月下旬に申請者に文書で通知する。

8. 研究経過及び成果の報告

毎年、研究代表者は言語文化研究所紀要に研究進捗状況を報告すること。また、助成金額は 2 月までに全て支出すること。研究期間終了後 2 年以内に成果を単行書として公刊することを義務とする。